

参考：森ビルが重点的かつ戦略的に再開発を進める「大街区」周辺エリア

アークヒルズ周辺エリアの「大街区」(約75ha)とは・・・

- ✓ 六本木・虎ノ門地区(大街区)市街地総合再生計画素案として港区が策定
- ✓ 外苑東通り、外堀通り、桜田通り、六本木通り等の幹線道路に囲まれたエリア
- ✓ オフィスビル、住宅、ホテル、大使館等の施設が立地し、国際色豊かで、多種多様な機能が混在する地域

港区の街づくりの整備方針に沿って、段階的に、道路、広場等都市基盤の整備と複合的な都市機能の更新が計画的に進んできた。

「大街区」周辺エリアにおける森ビルの主な再開発事業(実績)

- 1986年 アークヒルズ
- 1993年 六本木ファーストビル
- 2001年 アーク八木ヒルズ
- 2004年 オランダヒルズ
- 2009年 赤坂榎坂森ビル
- 2011年 アークヒルズ フロントタワー



今後の主な展開

虎ノ門・六本木地区再開発	2009年10月着工	2012年6月竣工(予定)
<u>(仮称)21・25森ビル建替計画</u>	<u>2011年4月着工</u>	<u>2013年6月竣工(予定)</u>
環状二号線プロジェクト	2011年春着工	2014年竣工(予定)



虎ノ門・六本木地区 第一種市街地再開発事業



時代のニーズに応える高機能オフィスや多様なライフスタイルに応える都市型住宅等を整備。また生物多様性に配慮するなど環境への積極的な取り組みも行う。CASBEEにおいて最高評価 S ランクの公式認証とともに、生物多様性を評価する JHEP でも最高ランク(AAA)を取得。

(仮称)21・25森ビル建替計画



アークヒルズに隣接する21森ビルと25森ビルの一体建て替え計画。1970年代に建設した両ビルを、高さ約110mの超高層高機能オフィスビルへ機能更新。アークヒルズと一体となり、エリア価値がさらに高まる。

環状二号線新橋・虎ノ門地区 第二種市街地再開発事業 街区



「幻のマッカーサー道路」に誕生する地上52階建、延床面積約244,300㎡の複合用途ビル。都内2番目の高さとなる超高層棟は都市再生のパイロットプロジェクトとして、文化、国際交流や観光都市の拠点となる。立体道路制度を活用し建築物の中を東京の新メインストリートとなる環状2号線が貫通。地上部道路は広幅員な歩道を整備、緑と風の回廊による豊かな都市空間を創出する。